

から「朝の活動・体力づくり」と帯時間が設定され、継続的に取り組まれてきた。昨年度はそれを引き継いだ形を中心に、下の図4に示す構想で取り組んできた。

(図4)

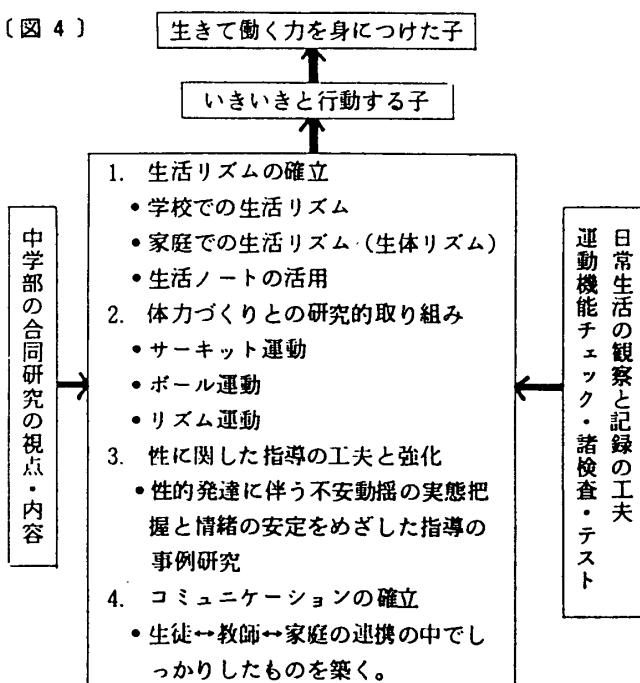


図4 [63年度の取り組み]

**生活リズムの確立**…………一日の生活に軌道を敷いて、反復しながら諸機能の定着を図る。生活を体で覚えさせるため、毎日の学習を帯時間でとり、繰り返しによる定着を図った。また、家庭では学校と共に課題を持つと同時に、睡眠、食事時間といったからだのリズム作りへ目を向けていった。  
**体力づくり**…………従来のかけ足運動中心の指導からサーキット、リズム、ボールといった三つの運動にかえて取り組んだ。  
**性に関する指導**…………各学期に3～4回の特設時間を設けて指導を行うと同時に毎日の生活の中でも個別指導を徹底するようにした。  
**コミュニケーションの確立**…………生徒と教師、親と子、親と教師がもっと胸襟を開いて話し合う。また、個に応じたコミュニケーションの開発に努めた。

以上のように4つの柱を中心として、生徒の健康と生活について共同で研究を続けてきた。どれをとっても少しづつ成果はみられたものの、色々な課題を残して本年度に引き継ぐ形となった。

#### [4] 本年度（二年次）の取り組み

昨年度の取り組みには、生活リズムの確立による情緒の安定、食事指導による適切な体格づくり、体力づくりによる運動機能や持久力の向上等、少しづつ成果が見られ、今年度もこの取り組みは続けていく事にした。しかし一方、この育ちつつあるからだを没頭できる楽しい生活に、思い切り生かし使う中でのからだづくりにも目を向けていく必要を感じ、遊び的労働を重視した生活単元学習に研究の場を広げる事にした。この事は単に、からだづくりを生活単元学習の場に広げて具体活動による実践的なからだづくりをめざしただけでなく、取り組み意欲、目的へ向けて思い続ける心、やり遂げた充実感や自信からくる生活意欲の向上といった、心理的・態度的な面を含めたからだづくりを強調しようとしたものである。

##### (1) 本年度の取り組みの基本姿勢

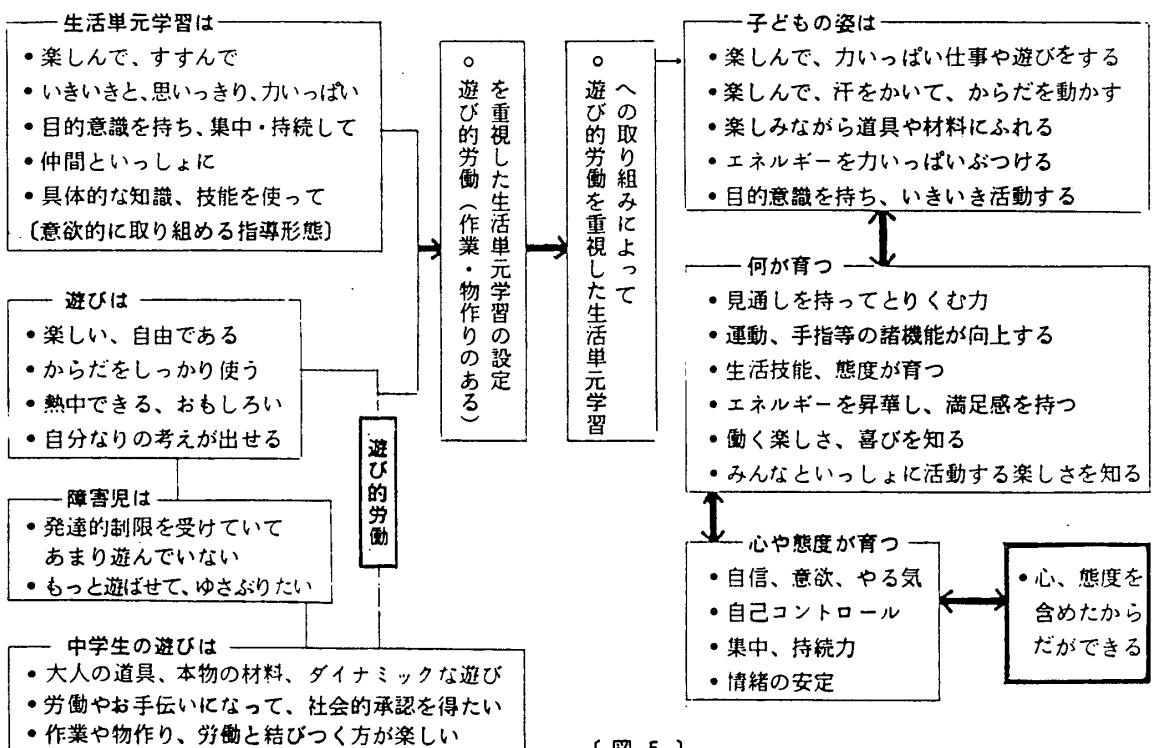
- ① 昨年度の取り組みを継続し、改善しながら積み上げていく。
- ② 遊び的労働（物作り、からだを使う）を重視した生活単元学習にからだづくりの場を広げ、からだを生かし使う立場からのからだづくり（心理面・態度面を含む）を追究していく。
- ③ 家庭との連携を大切にし、家庭と一体となった生活づくりを心がける。

④ 学部の共同研究を背景に、発達と障害に応じた、個に視点を当てた個人事例を追究する。

### (2) 遊び的労働を重視した生活単元学習にからだづくりの場を広げた理由

#### ① 遊び的労働を重視した生活単元学習

生活単元学習は具体的な活動を通して意欲的に、やる気を持って学習に取り組むことをめざした指導形態であり、からだづくりに対しても生活を通してからだを育てる、生活意欲を育てる、育ったからだを総合的に生かす場になる。一方遊びは、遊びの楽しさ、自由さ、おもしろさを通しながら身体的・知的・社会的・情緒的な発達を促すのに大切な生活である。この両者に中学生のからだ、社会的な位置づけ、職業化への見通し等を加味して総合的な立場から捉えたのがこの遊び的労働を重視した生活単元学習である。従来の作業と統合した生活単元学習と変わるものではないが、からだづくりの観点から組み立てていった点で特徴的である。



[図 5]

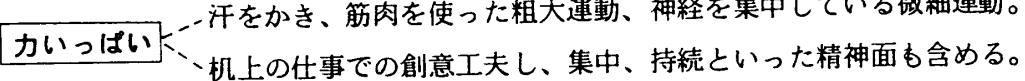
### (3) 「楽しんで力いっぱいからだを動かす子」とは

我々は、生活単元学習にからだづくりの場を広げる過程で「まだまだ伸びぎかりの思春期のからだを楽しく、思いっきり、熱中して動かす（精神面も含め）ことによって更に発達させていくのだ」という気持ちを込めて、学部のからだ像（テーマ）を「楽しんで力いっぱいからだを動かす子」と決定した。具体的姿は実践の過程で検討を加えたが、基本として次の点を共通理解した。



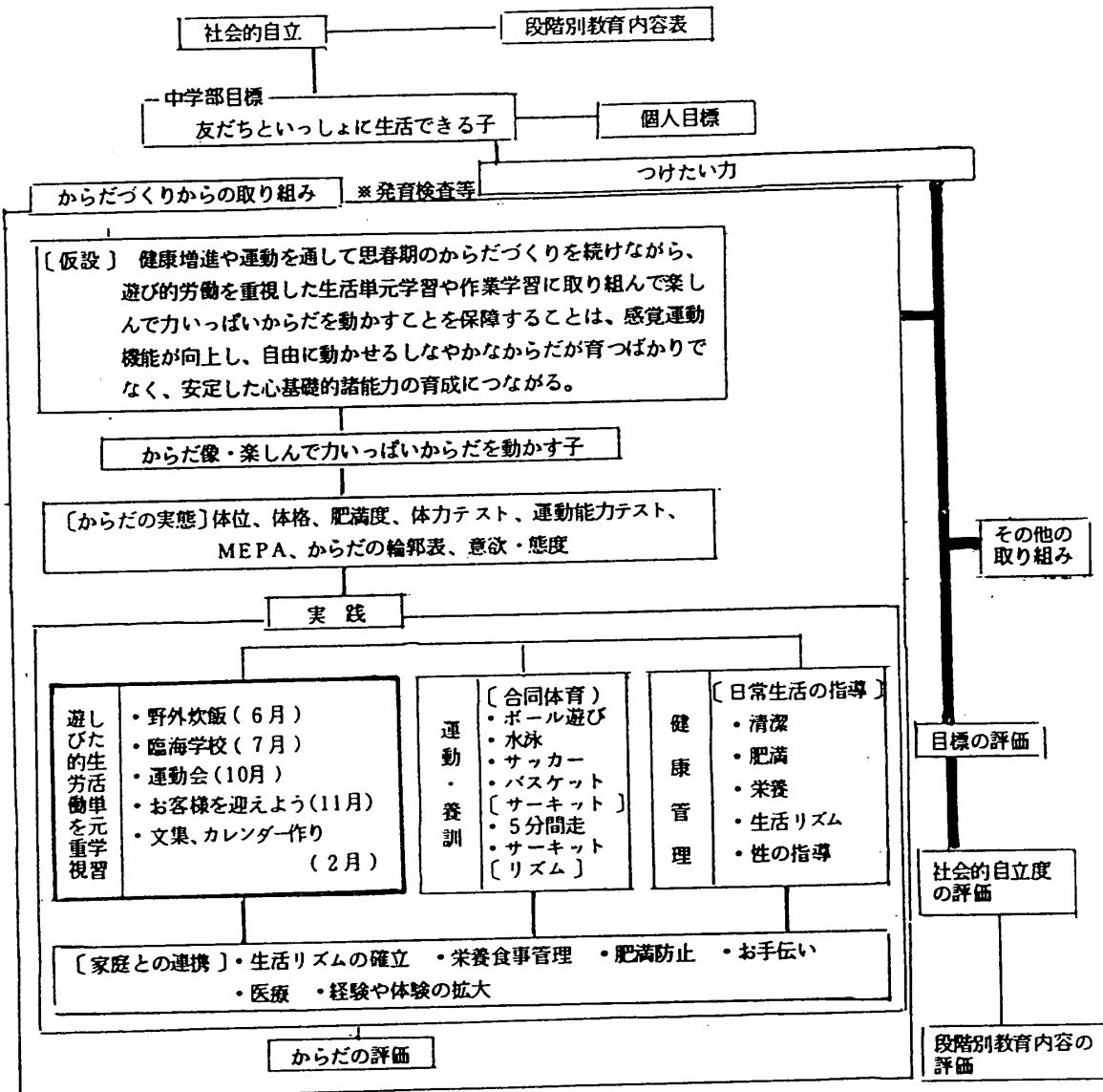
[集中しているのも力いっぱいの姿]

楽しさ  
 その場その場の楽しさ  
 ちょっと先の結果を予想した楽しさ  
 やり遂げた時を想像した楽しさ } 等、色々  
な段階がある。

**力いっぱい**   
 汗をかき、筋肉を使った粗大運動、神経を集中している微細運動。  
 机上の仕事での創意工夫し、集中、持続といった精神面も含める。

#### (4) 研究の構想図

以上、本年度の取り組みを述べた。下記の図6は、それを構想図で示したものである。



#### (5) 生徒の実態

指導を展開するに当たり、色々な実態調査をした。各々の目的については各調査の項で述べるが、実態調査は次に述べる考え方で実施し、指導に生かそうとしたものである。

- 指導前と指導後を比較するための基礎資料とする。
- 調査結果を指導に生かす。その際、落ち込みに目を向けるばかりでなく、むしろ得意とする面